

# 大学教育だより



RDHE 2007.3 No.4

Center for Research and Development of Higher Education

大阪市立大学  
大学教育研究センター

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
(全学共通教育棟5階)

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/>

## 大学教育だより No.4

Voice～学生の声

商学部生による看護学科生へのインタビュー・ルポ!

Campus Inquiry

ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています!  
経済 / 法 / 理 学部・研究科編

Center Now & Human

大学教育研究センターはこんなところですよ!

OCU Education News

市大教育ニュース!  
大阪市立大学の英語教育が変わります

## アン ロゾ (Un roseau) No.8 : 縦書き部分

日野泰雄 先生(工学研究科・工学部)

浅田和茂 先生(法学研究科・法学部)

## 商学部生による看護学科生への インタビュー・ルポ!

### 「医療の現場で学ぶとは？」

2007年2月13日、商学部 坂上ゼミの4回生の学生5名が医学部看護学科を訪問し、友田先生の紹介で集まってくれた看護学科の3回生の学生5名にインタビューを行いました。さまざまな演習室があるきれいな看護学科学舎も見学しました。文系学部の商学部生からは、看護学科の学生生活はどのように見えたのでしょうか。

商学部の学生(以下、商): 初めまして。よろしく  
お願いします。

医学部看護学科の学生(以下、看): よろしくお願  
いします。



【カリキュラムについて】

商: 私たちは単位制なので、ふつうは3回生を終えた時点で卒業単位の大部分をとってしまいます。4回生はゼミと卒業論文の単位だけという学生も少なくありません。看護学科ではどうですか。

看: 基本的には単位制なのですが、同じ学年であれば皆同じ講義を取るようになります。講義も高校までのように、同学年の学生はいつも同じ部屋で受講し、先生の方が入れ替わります。必修科目を落とせば、もう一度その学年をやり直すことになっていきますので、実質的には学年制のようになっています。自由に科目を選択できるのは1回生の

Voice ~学生の声

# Voice ~ 学生の声

## 商学部生による看護学科生へのインタビュー・ルポ!



時の共通教育科目ぐらいですね。

**商：卒業研究では何をやるんですか。それと卒業論文はあるのでしょうか。**

看：まだ卒業研究が始まっていないのでよく分からないのですが、テーマを決めて研究し、それを卒業論文としてまとめます。ただ国家試験がありますので、卒論を書くことよりも国家試験合格の方が大きな目標となっています。

**商：病院での実習は、どのようなことをやるんですか。**

看：看護師さんの指導を受けながら1人の患者さんを受け持って実習をするんですけど、採血などの医療行為はまだできません。脈や血圧を測ったり、患者さんのケアをしたりするのが中心です。

**商：看護学科の学生さんも解剖とかやるんですか。**

看：医学科の学生さんの解剖学実習は数ヵ月かけておこなうのですが、私たちはそのうちの数日だけ参加させていただいて学習します。そのため、私たちが実際にメスを使ったりすることはありません。傍らにいて観察するだけです。慣れない人の中には、実習中に倒れてしまう人もいます。

**商：注射器を使った実習ですが、何か薬を実際に注射したりするのでしょうか。それとも血を採るだけなのでしょうか。**

看：どちらもあります。筋肉注射では、ビタミン剤のようなものを学生同士でお互いに注射しあったりしました。

**商：医療現場で実習する時に、どんな苦労があるんですか。**

看：実習の際には、最初に自分で立てた実習計画を担当の看護師さんに聞いてもらい了承してもらい必要があるのですが、現場の看護師さんはとても忙しいので、なかなか聞いてもらえない時があります。そうすると、何も始めることができずにウロウロするだけになってしまいますので、とても焦ります。

【学生生活・キャリアパスについて】

**商：クラブやサークルをする余裕はありますか。**

看：半分ぐらいの人がサークルなどに入っているみたいです。実習が始まるまでは、結構普通に活動ができますが、いったん実習が始まると、なかなか練習を続けるのは難しいですね。

**商：看護師を目指したきっかけはなんですか？**

看：家族の勧めがあったとか、自分自身が入院したときに世話になり自分も看護師になりたいと思ったとか、手に職をつけるための資格を取りたいとか、色々です。

**商：看護師にも就職活動というものはあるんでしょうか？**

看：はいあります。卒業生の就職率はほぼ100%です。ただし看護師の国家試験に落ちると就職が取り消しになってしまいますので、落ちないようにみんな必死です。

**商：内科や外科など、どの科が人気あるんですか？**

看：これは本当に人によって様々ですね。ただ看護師としての実力を付けたいと思っている人は、救命救急を希望する人が多いみたいです。

**商：看護師以外の進路先に進む人はいるんですか？**

看：ごく稀にですが、看護師の知識を活かして医療機器メーカーに就職したり、中には普通のOLになったりする人もいます。



【インタビューを終えて】

看護というものが想像以上に大変な仕事であることがわかったのと同時に、国家試験合格を目指して一生懸命に頑張っている姿にとっても感動しました。人の生命に関わる領域という意味で、我々商学部とは学習内容が持つ重みの違いを考えさせられた思いです。ただ商学部の学生が公認会計士や税理士を目指すように、手に職をつけるために難しい試験にむけて頑張るという点は、商学部にも看護学科にも共通する部分があると感じました。(了)

ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています!

# Campus Inquiry 経済学部・研究科

## 経済学部の卒業論文指導

経済学部は少人数教育を特色として掲げています。ここでは、少人数教育のなかでも**卒業論文の指導過程**を中心に紹介しておきましょう。

大学での学習の集大成である卒業論文を準備する学生諸君の活動は実は、1年次に提供される定員20名以下の必修科目である**基礎演習Ⅰ(前期)**と**基礎演習Ⅱ(後期)**から始まります。基礎演習Ⅰでは資料・文献の調べ方や発表の仕方を身につけるとともに、経済学の初歩的な文献を読んでいく演習が行なわれます。他方で基礎演習Ⅱの目標は、「修了小論文」を仕上げることです。これは「小論文」ですので、1学期間の研究成果をまとめることもさることながら、同時に脚注や参考文献一覧といった学術論文としての形式をふまえることが求められます。この論文執筆の経験が、最終的には卒業論文に生きてくるはずですよ。

2年次にも「文献講読・小論文指導」という少人数の選択科目が開講されていますが、経済学部での学習の醍醐味はなんといっても、3年次と4年次に開講される**演習3**と**演習4**(いずれも定員は10名以下)そして演習4の仕上げである卒業論文の執筆にあります。これらの演習は毎年、教授全員と準教授の半数が開講し、担当教員の専門分野に沿ったグループ研究が行なわれます。しかし、そこまでなら他大学でも多かれ少なかれ実施されている内容でしょう。本学の経済学部による卒論指導において特筆すべきは、以下の点です。

- 1) 提出された卒業論文は、指導教員によって採点される前に、経済学部の複数の教員からなる**卒業審査委員会**が審査する。この審査では、学生諸君に事前に周知されている論文の形式要件が満たされているかどうか吟味され、要件を満たしていない場合には卒論の書き直しと審査委員会への再提出が求められる。
- 2) 卒論の執筆を支援するために、4年次の学生諸君には『**経済学雑誌**』別冊**講義資料**の付録である『**卒業論文特集号**』(写真参照)が配布される。この特集号には、前年度の全卒業論文の題名と要旨が記されている。
- 3) 演習担当教員から推薦のあった優秀な卒業論文は、別の複数の教員による審査を経て、**最優秀卒業論文**または**優秀卒業論文**として卒業式で表彰を受ける。また、最優秀卒業論文は次年度の『**経済学雑誌**』別冊**講義資料**にその全文が掲載され、後輩たちの参考に供される。

さて、このような少人数教育を経てきた4年次の学生諸君は、その経験をどう評価しているのでしょうか。2007年

1月に、卒論を提出した**4年次学生を対象**にしてアンケートを実施してみました。アンケート調査はまだ継続中ですので、ここでは第1部についてのみその中間報告をします(卒論提出者169名のうち113名から回収)。

まず、4年間に受けた経済学部の専門教育科目(群)の中で最も有意義だった科目(群)を2つだけ選んでもらいました。最も人気が高かったのは、やはり「**演習3と4**」でした(73名の学生がこれを選択。以下、同様)。ちなみに第2位は、各教員が自分の専門分野を講義する「**基礎科目Ⅱ**または**応用科目**」(40名)でした。

次に、経済学部の教育課程についてよいと思う点を尋ねてみました(複数回答可)。最も多かった回答は「**多様な分野の教員とその研究に触れることができる**」(53名)で、第2位は「**少人数教育が充実していて、教員の助言を仰ぎやすい**」(47名)、第3位は「**自分に興味のあるテーマを選び研究できる仕組みがある**」(39名)でした。

以上の結果は、教育課程を終えた学生諸君が経済学部の少人数教育を有意義なものとして捉えてくれていることを物語っています。しかし、アンケートの最後の質問項目(「経済学部の教育課程についてよくないと思う点」複数回答可)からは、少人数教育の課題が浮き彫りになりました。すなわち、最も多かった回答は「**卒業後の進路決定のための支援が不足している**」(42名)であり、これに次ぐのが「**2年次に少人数形式の授業が少ない**」(35名)だったのです。目下、このアンケート結果をふまえて、**少人数教育のあり方を再検討する対策会議**が改革案を練っているところです。

大学教育研究センター兼任研究員  
経済学研究科教授 中村 健吾



ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています!

# Campus Inquiry 法学部・研究科

## 法学部からロースクールまで

法学研究科に所属する教員は、5種類の異なる教育活動に従事しています。

- ・ 法学部第1部
- ・ 法学部第2部
- ・ 全学共通科目
- ・ 大学院法学政治学専攻
- ・ 大学院法曹養成専攻

学部教育の中心となるのは、オーソドックスな形式で行われる講義です。体系だった知識の伝達には講義形式が最適です。講義は大教室で行われることもあり、通常出席をとりません。逆にいえば、出席しているだけで単位が取得できるということもありませんので、受講生は集中して講義内容を聴くことになります。



夜間に開講される法学部第2部でも、法学部第1部とほぼ同等の講義が行われています。しかし最近、第2部開講科目を基本的に2単位化した結果として、従来から4単位科目として提供されている第1部の科目とは、内容・形式とも大きく異なることになりました。例えば私が担当する法哲学も、第1部とは全く別の内容と形式で第2部の講義を行っています。

法学部教育の中心は講義ですが、**少人数教育**を軽視しているわけではありません。3年生・4年生が履修する**専門演習**のほかに、外国語演習、各科目の先端的な内容に関わる発展講義などを少人数対象で提供しています。

どのような演習にするかは、各教員の腕の見せ所です。例えば私が担当する専門演習(法哲学)では、学生を複数の班に分け、各班が担当する各個別テーマについて、この世に存在する最高のウェブ・サイトを作成することを目標に掲げています。

法学研究科は**全学共通科目**でも、複数の科目を提供しています。全学共通科目は、受講生の多くが1回生で、他学部の受講生も多いですので、法学部教育とは違う教育的な配慮が必要です。例えば私は「環境と法行政」という科目で、地球温暖化や動物の権利について、具体的な事件・統計を多く使いながら、講義を行っています。

以上の学部教育の他に、**大学院教育**があります。

一つめは、研究者と高度職業人の養成を目的とする**法学政治学専攻**での教育です。これは各教員によってやり方が異なりますが、多くの場合、基本的な外国語文献を読みこなすことに主眼を置いています。外国語文献の正確な読解が、研究者には必須の能力だからです。大学院生と研究書を読み進めていくのは、教員にとって研究者としての自分を発揮するときであると共に、「教えることは教わることだ」ということを感じるときでもあります。

大学院教育の二つめとして、**法曹養成専攻**、いわゆる**ロースクール**での教育があります。ロースクールは、司法試験という点による選抜ではなく、プロセスとしての法曹養成を目的として設置されています。その教育内容は、**実務との架橋**を強く意識したものになっています。私が担当する法哲学でも、法解釈の方法論・法理論に焦点を当てています。

授業の内容だけではなく、授業のやり方も、限られた時間で専門的な法知識を習得させるためにさまざまな工夫がなされています。ケースメソッド等多用して、教員と学生、学生同士の質疑応答・議論を中心に、学生が多様な見解に触れることのできる**双方向的・多方向的な授業**を行っています。また、オフィス・アワーなどで学生からの活発な質問に回答するなど、かなりきめ細かい対応をしています。



このように法学研究科では、学生のタイプに応じて、内容・方法に変化を付けた教育を行っています。これだけの教育を行うためには、**マン・パワー**が必要です。

しかし残念ながら、大阪市の財政危機の影響で退職者の後任人事が凍結され、2007年度の専任教員数は、一気に6人減って37人となります。このままでは大阪市立大学の法学教育が立ち行かなくなるのではないかと、個人的には危惧しています。

大学教育研究センター兼任研究員  
法学研究科助教授 瀧川 裕英

ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています!

# Campus Inquiry 理学部・研究科

## きめ細かい学生支援の紹介

新入生諸君にとって、大学生活の学習内容・学習方法、諸制度や生活様式は、高校までの生活とは大きく異なります。そのため理学部では、学生への大学からの支援は重要なものと位置づけています。

本学理学部は、数学科・物理学科・物質科学科・化学科・生物学科・地球学科の6学科で構成されています。理学部での大きな単位は学科であり、それは学科毎の専門科目の講義や4回生になって行う卒業研究の内容に端的に現れています。理学部での授業や研究内容の紹介は理学部HP (<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp>)などを参照してもらおうこととし、ここでは新入生諸君が入学以降どういった支援を受けていくことになるのかについて、理学部が行っている学生支援を紹介します。

**担任制:**理学部では2007年度から、すべての学科で担任の教員を設けています。担任は入学から卒業時まで同一の教員が担当し、新年度のガイダンスの実施や科目の選択など教科に関する諸問題への対応をはじめ、大学生活全般の問題や就職活動での相談に乗るなど、学生諸君のサポートをしています。

**初年次教育:**理学部では、初年次から専門科目の授業が始まります。大学での授業は、これまでの高校での授業とは異なり、一気に専門色が濃くなります。中には「ついていけない」場合が生じることも起こります。そこで、高校での科目と大学での専門科目とを橋渡しするような授業は新入生にとって大いに役に立ちます。理学部では6学科すべてにおいて、「初年次教育」として専門教育の内容を盛り込んだ基礎教育科目や、専門科目でありながら比較的基礎的な内容あるいは各学科の研究内容を盛り込んだ科目で、専門的な内容を幅広くかつわかりやすく授業しています。



理学部における初年次教育の授業風景例(地球学科提供の野外実習)

**新入生歓迎行事等:**大学においても、教員や諸先輩との人間関係あるいは信頼関係を築くことは大事なことです。いずれの学科においても、入学間もない頃に「新入生歓迎会」が催されています。学科毎に全教員、多くの学科では2回生や3回生の先輩も参加し親睦が深められています。また学科によっては、この他にソフトボール大会やセミナー合宿も開かれるなど、授業以外でも交流の場が設けられています。そして、ほとんどの学科では卒業時に(多くの場合卒業論文発表会の後です)卒業祝いのパーティー(もちろんお酒あり)が催されます。

**授業評価アンケート:**いずれの学科においても、2回生から専門科目が多く提供されます。これらの専門科目については、すべての学科で個々の授業に対して、内容に興味をもてたか、授業内容は理解できたかなどを、受講生諸君を対象に各学科独自の授業評価アンケート調査を実施し、その結果を基に授業改善を行っています。学生の理解が十分でない判断された場合は、学科によっては必要に応じ補講などを実施し、学生の理解を促すなどの努力をしています。

その他、地球学科では、日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定を受け、教育内容の外部からの評価も受けています。

大学教育研究センター兼任研究員  
理学研究科教授 幸田 正典  
理学研究科教授 坪田 誠  
理学研究科講師 根本 泰雄

大学教育研究センターは  
こんなことに こんなメンバーで取り組んでいます!

# Center Now & Human

## FD活動

### (1) FD研究会 (年1回)

FD研究会は、大阪市立大学における教育の向上を図るための組織的な研修や教育に関する研究活動の成果に関し、全学的な交流をはかる場として設定されています。毎年、100名前後が参加する大きな研究会です。2006(平成18)年度の分科会および全体会のテーマは次の通りです。

第一分科会テーマ:「**高大の接続と学士課程教育**」

第二分科会テーマ:「**特色ある教育プログラム・授業実践**」

全体会テーマ:「**大阪市大の初年次教育について**」



### (2) 教育改革シンポジウム (年1回)

教育改革シンポジウムは、全学的に共有可能な大学教育に関するホットな話題について、大学内外の情勢を理解しながら考えを深めることを目的に開かれています。第13回目を迎えた2006(平成18)年度は、講師に濱名篤閑関西国際大学長を招き「初年次教育とは何か～学士課程における必要性と効果」をテーマに開催しました。

### (3) FDワークショップ・大学教育研究セミナー (年2~4回)

FDワークショップと大学教育研究セミナーは、ワークショップ形式またはラウンドテーブル形式等を取り、主に学内の参加者間で教育実践事例や大学教育にかかわるホットトピックの紹介とそれらについての意見交換を行う場として設定されています。

## 研究成果の発信と広報

### (1) 大阪市立大学大学教育研究センター紀要『大学教育』

主として本学の教育に資する研究成果の発表の場として、学内はもとより全国から投稿を募り、年に1~2回発行する、査読付き論文などを掲載する学術雑誌です。センターのFD活動・研究活動の報告の場でもあります。

### (2) 大学教育だより & Un roseau (アン ロゾ)

今お読みのこの冊子です。教員および学生を対象として、大阪市立大学におけるさまざまな教育への取り組みをまとめた広報誌『大学教育だより』を年1~2回発行してきました。また、大阪市立大学での学びの道しるべとして全学共通教育総合教育科目ガイドブック『アンロゾ』を発行し、学生のみなさんに配付してきました。今回から、この2つを合冊として、より充実した内容として発行し、一層幅広く配付することとしました。

## 研究プロジェクト (2005年度~)

### (1) 初年次教育

近年、大学の大量化が進み、それとともに大学に入学してくる学生の多様化が急速に進みました。そのために、古くからの大学のあり方と学生の実態が合わず、高校から大学、大学から社会への移行もスムーズに行かない現状も見られます。

大学初年次段階の大学教育へのスムーズな移行のための、大学での学びの動機付け、学生の学習デザインの支援、大学で学ぶための基本的なスタディスキル教育、自立した学生生活を送るためのガイダンス・教育支援、そして本来は大学教育ではなく高校時代に身につけておくべき学習内容の補習と位置づけられるリメディアル教育も、その必要性からあえてこれに含めて幅広く「初年次教育」と捉え、その全学的教育システムのあり方の研究開発をしています。

### (2) 学生の受け入れにかかわる調査

授業科目ごとに履修した学生の把握は行ってきましたが、一人の学生を中心に入学から卒業までを一貫してその状況を把握し、指導に反映させるような体制は、大学ではこれまであまり一般的ではありませんでした。しかし、近年学生の多様化が進み、このような視点で学生の状況を的確に把握し、受け入れ体制に反映させることが一層重要になってきました。

2005年度より、関係部署と連携をとりながら学生の受け入れにかかわる調査について、複数のプロジェクトを立ち上げています。高校から学士課程前半(とくに大学初年次)、そして学士課程後半へと円滑な接続の実現を目指して、プロジェクトを現在も推進しています。

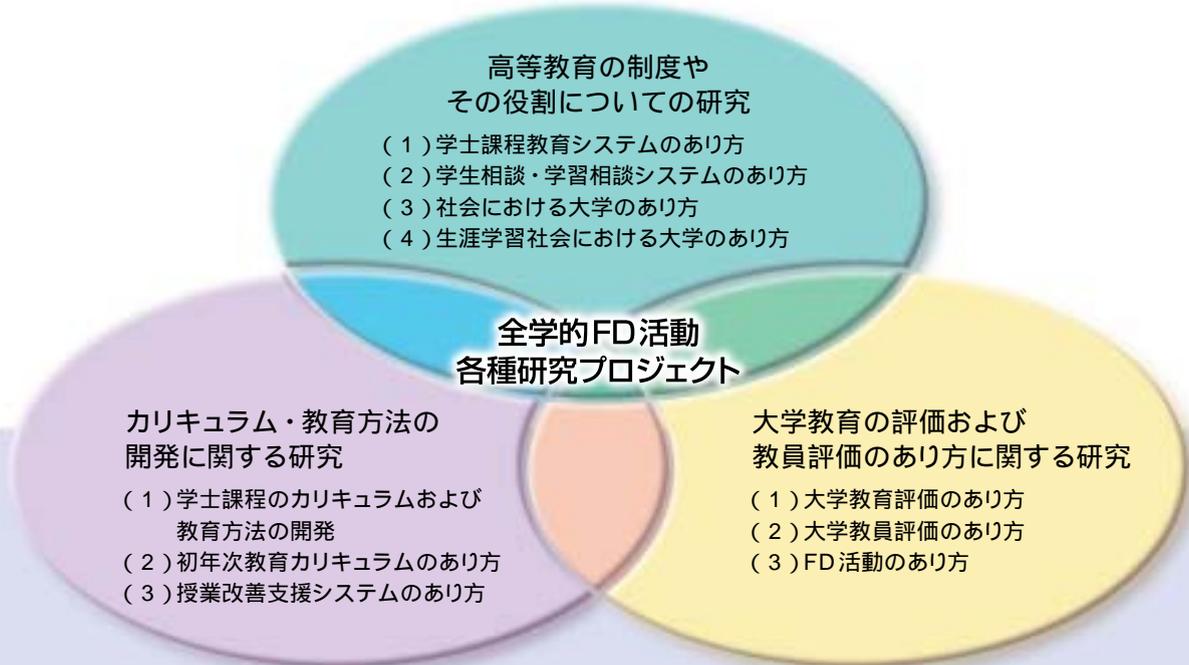
### (3) 授業改善支援システムの構築

講義、演習、実験、実習等さまざまな形式をとる大学の授業を改善するための手がかりを得る手段として、学生による授業アンケート調査をいかにデザインするか、いかにその結果を授業をよりよくするために利用していくかについて試行を繰り返し、授業改善支援により一層役立つアンケート調査のあり方、教員へのフィードバックのあり方を検討します。また将来的には、個々の教員による日常的な授業改善への取り組みを評価するための仕組みについても検討を行っていきます。

2006・2007年度を、すでに全学共通教育において10年以上実施してきた本学の教育評価アンケート改善のための見直し期間と位置付け、改訂に取り組んでいます。

# 大学教育研究センターの研究概要

大阪市立大学 大学教育研究センターは、大学を取り巻く新しい環境の中で、社会の進路を見据えた大学教育のあり方を実現することを目指して、研究と開発をすすめるために設立されました。次の3本の柱を基本に据えつつ、相互に強く関連をもつ各種プロジェクトに取り組んでいます。



## FDとは？

ファカルティ・ディベロップメント( Faculty Development )の略で、大学教員の職業的な資質向上のための活動のことです。大学教員の職務には、教育だけでなく、研究や組織のマネジメントもあるので、FDとは広くそれらにかかわる能力開発ということになりますが、主として教授能力の開発をさす言葉として使われています。教授個人の教授力の向上だけでなく、大学組織全体の教育力の向上のために行う組織的な取り組みの総称です。

## 大学教育研究センタースタッフの紹介 (平成19(2007)年3月現在)

所 長  
中村 圭爾 副学長



### 専任研究員

矢野 裕俊 副所長 大学教育研究センター教授  
研究分野：生涯学習社会における学校教育の役割 / 教育学

大久保 敦 大学教育研究センター助教授  
研究分野：高校大学の接続 / 自然史科学教育 / 古植物学

西垣 順子 大学教育研究センター助教授  
研究分野：大学教育の評価に関する研究 / 教育心理学

飯吉 弘子 大学教育研究センター講師  
研究分野：社会における大学のあり方に関する研究 / 教育学 / 大学教育史

渡邊 席子 大学教育研究センター講師  
研究分野：教育支援・授業支援システムの研究 / 社会心理学

### 兼任研究員

青山 和司 経営学研究科教授  
坂上 学 経営学研究科助教授  
中村 健吾 経済学研究科教授  
瀧川 裕英 法学研究科助教授  
瀬戸 賢一 文学研究科教授  
早瀬 晋三 文学研究科教授  
辻本 英夫 文学研究科助教授  
幸田 正典 理学研究科教授

坪田 誠 理学研究科教授  
根本 泰雄 理学研究科講師  
日野 泰雄 工学研究科教授  
岩井 一宏 医学研究科教授  
友田 尋子 医学部看護学科教授  
中井 孝章 生活科学研究科教授  
大西 克実 創造都市研究科助教授

### 事務局(兼任)

染川 章文 学生支援課長  
宮崎 宗久 学生支援課係長  
東村 敏恵 学生支援課員

# 大阪市立大学の英語教育が変わります



平成19年度より、大阪市立大学の全学共通教育における英語教育が、「英語教育開発センター」(平成19年4月1日設立)主導のもと、大きく変わります。

# 英語

英語教育開発センターは、全学共通教育における英語教育を統括し、より効果的かつ実効性のある英語教育を提供することを目的に設立されました。センターでは、市大生に求められる英語運用能力を育むため、新たなカリキュラムを導入(全学共通科目外国語科目「英語」を「CE」に改編)し、学生の自学自習を支援するための自習室やCALL教室を運営します。

# CE

## 1 「英語」が「CE (College English)」になります

### CEの特徴

1年次はネイティブ・スピーカーの教員が授業を担当。  
(一部例外があります)  
1クラス25名程度の少人数制。  
さらに高度な英語の授業を希望する学生は、  
2年次にACE(Advanced College English)を履修することもできます。



## 2 自習室が利用できるようになります

自習室(全学共通教育棟5階)にPC15台、DVD、新聞・雑誌、談話コーナーなどを設置。  
英語学習のためであれば、  
学生はだれでも利用できます。